

2018年度に向けて(2021. 4. 15)

私は小松牧師の後任として横手教会から招聘を受け、2017年4月、就任させていただきました。小松牧師の13年間の働きを継承し、いよいよ横手教会が大きく成長するためである。そこで、私たちは総会においてイザヤ43:19を主題聖句として掲げ、このみ言葉が約束する希望に生きようと決議した。そして、この1年間一人ひとりの心に与えられた新しい芽生えを大切に、特に2回の「教会懇談会」において共有し合い、それらを形にすべくお互い奉仕に汗を流してきた。

特に、年度目標「教会を美しくしよう！」のもとに、クリーンアップディの第4聖日には会堂内外の清掃に励んだ。また、環境整備に心がけ、内部ではオルガンのメンテナンス、ブランケット設置、門灯のタイマー化、網戸設置、ひび割れのコーキングなど、外部では懸案の境界線問題の解消、坂道の美化、新しい掲示板など設置した。



一方、目標に掲げた「礼拝の充実」、「祈りと学び」、「互いに愛し合うこと」、「地域に開かれた教会形成」などでは、礼拝開始時間の変更、間奏の導入、ピンマイクとロールスクリーンの導入、聖書日課の活用、聖餐式の定着、教会員以外へのオルガン貸出などが実施された。しかし、まだまだ取り掛かりの段階にあり、新しい年度は聖霊によってお互いの心に芽生えている幻やアイデアを分かち合い、さらに押し進めていきたい。

沢山の恵みを戴いた1年であった。特に以下の2点は今後のためにも記録しておきたい。2月15～16日の「横手教会ミニかまくら」である。駐車場からライトアップされた会堂まで続くほのかな灯りの数々。会堂に流れる奏楽と賛美。お菓子セット。そして、沢山の来会者。雪の町・横手にある教会ならではの恵みである。また、12月24日のクリスマスの長い一日もまた恵みであった。礼拝、祝会、イブ礼拝、キャロリング。チラシを作り、新聞に折り込み、お店や公共施設に設置・掲示をお願いし、教会員各自が自分なりに活用された。主は私たちの祈りを御心に留めて下さり、午前の礼拝には33名、イブ礼拝には41名の来会者を与えて下さった。かまくらとクリスマス。ここにお一人おひとり、伝道の展望を感じ取られたのではないだろうか。

新年度はこれらの恵みを力にして、さらに御心に添う教会形成に共に励みたい。特に「互いに愛し合いなさい」との主のみ言葉を心に響かせて歩みたいと願っている。